

# おれんじニュース

No258

2011年9月号



7月23日、大金峰にのぼった後、梅の木轟公園にて滝を見物した。マイナスイオンたっぷり

★集会・委員会・行事のお知らせ★				
★4月から会合の曜日が水曜日です★				
	9月	10月	時間	場所
運営委員会	7(水)	12(水)	19:30~22:00	西諫早公民館
ひまわり集会	9(金)	7(金)	13:30~15:30	
全体集会	21(水)	24(月)	19:00~22:00	

山行の一步は集会参加から。10月の全体集会是月曜日です。!!!



九千部岳

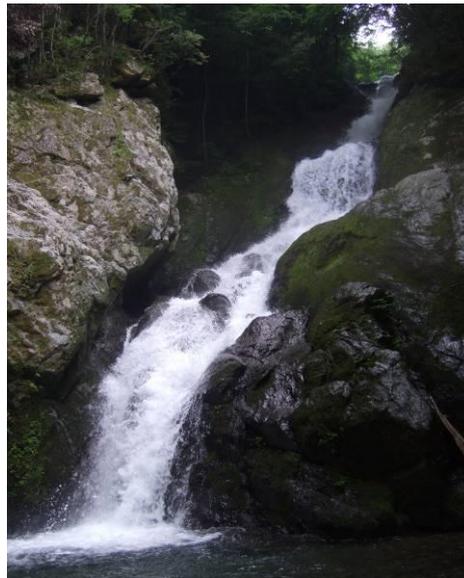
がんば  
ってま  
す！！



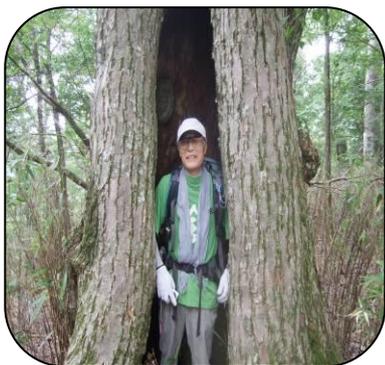
マムシが出そうで出なかった大金峰



ヒメシャラとナツツバキの多い山、国見岳



梅の木轟 一番奥の滝



こんなことをして遊んで来ま  
した。椿姫もいたりして・・・





## 9月山行計画

部	山行部	技術研修部	技術研修部	ひまわり山行部
月・日	9月3日(土)	9月18日(日)	9月25日(日)～ 9月28日(水)	9月30日(金)
山名(行事)	大黒山(324m) 大梅山(277m)	多良岳 訓練	南アルプス 鳳凰三山	荒尾岳(342m)
地図	山口県周東町	多良岳		天草町高浜南
集合時間	諫早駅裏 6:00 西諫早駅前 6:10	西諫早駅前 8:30		西諫早駅 7:00
難易度	初心者	初心者	初心者	初心者
帰着時間	19:00	16:00		18:30
歩行時間	2.5h	5.5h		2h
交通手段	マイクロバス	マイカー	夜行バス	マイカー
宿泊施設	日帰り	日帰り	バスと山荘	日帰り
温泉	なし	なし		有り
参加費	5500円	1000円	50000位	車両使用料規定
申込期限	定員になり次第	来るもの拒まず	9月18日位まで	定員になり次第
集約	田中	川原	川原	中村
備考	市街地近辺の 低山山頂の 巨石鑑賞	南アルプスへ向 けての訓練です が誰でも参加で きます。	地藏岳(2764m) 観音岳(2840m) 薬師岳(2780m) 夜叉神峠から	寛永18年異国船 を見はった遠見 番所があります。
感想文提出	9/17	9/25	10/10	10/15

8月27日(土) セルフレスキュー (JR西諫早駅9:30集合)

9月23日(金) セルフレスキュー (JR西諫早駅9:30集合)



ここにアゲハ蝶の家紋が  
つけられていた。OHCのY氏  
も同じとのこと！





## 10月山行計画

部	技術研修部	山行部	ひまわり山行部	技術研修部
月・日	2日(日)	15日・16日	21日(金)	25日～30日
山名・行事	火の山連山・ すえがたけ 陶ヶ岳(303.6 m・230m)	古祖母山 1633m	九千部 847.5m 石谷山 754.4m	中仙道木曾路の 旅
地図	台道	古祖母・見立	中原	
集合時間	諫早駅裏 6:00 西諫早駅 6:10	諫早駅裏 7:00 西諫早駅 7:10	西諫早駅 7:00	
難易度	初心者	やや健脚	初心者	旅行感覚で
帰着時間	20:00	19:00	17:00	
歩行時間	3時間	1日目・観光 2日目・5.5h	4h?	それぞれに自由
交通手段	マイクロバス	マイクロバス又 はマイカー	マイカー	マイクロバス
宿泊施設	日帰り	五カ所公民館等	日帰り	バス&宿
温泉	無し	無しかも	有り	有りかも
参加費	5500円	12000円	車両使用料規定	70000程度
申込期限	定員になり次第	定員になり次第	定員になり次第	定員になり次第
集約	佐原	田中	中村	川原
備考	低山なれど・・・	紅葉がみごと です。	紅葉狩りと展望	秋の木曾路を 堪能します。
感想文提出	10/15	10/25	10/30	11/10

### 九州ブロック「元気の出る集会」の開催要領について

○主管: 熊本県連盟

○日時: 2011年9月10日(土)～11日(日)

○場所: 阿蘇青少年交流の家

○参加費: 一人 1500円 1日参加 300円

○内容: 9/10 受付 12:00

講演 13:30～14:10「労山黎明期の話」講師: 深野一郎氏

対談 14:10～14:40 深野氏・古賀氏を交えて

分科会 15:00～17:00「写真教室」「レスキュー」「地図の見方」「阿蘇の自然」

9/11 交流登山及び救助訓練

A) 高岳 B) 杵島・往生岳 C) 烏帽子岳 D) 散策 E) 搬出訓練

14:00 終了予定

日時 : 9月29日(木) 午前9時  
集合場所 : 油木町県立体育館前  
歩行時間 : 4時間 距離 6.5km 路線バス他  
申込先 : 塩田さん

## 7月8月の山行報告



7月22日(金)

### 九千部岳

(参加者)

小山、佐藤、松尾(香)、佐原、金丸(直)、中村、林田、林、中野、(外)円能寺  
(計10名)

(行程) 西諫早駅発 8:00—田代原トレイルセンター着 9:40—トレイルセンター発 10:00—山頂着 12:20—下山開始 13:10—トレイルセンター着 15:40

(感想)

またまた久しぶりの山行。天気は晴れているような曇っているような。山行には最高の天気。

途中の野菜屋さんの前は、やはり素通りできず、立ち寄るが、いつものように品数はなく、ちょっと期待はずれ。

トレイルセンターからの登り道はこんもりした自然林にかこまれ、久しぶりの山の空気を胸いっぱい吸いながら登る。

ひまわり特有のゆっくり、ゆっくりの登りにみんなの話し声も絶える事がない。

途中、諫早のほうではそろそろ過ぎているねむの花がまだきれいで、さすがに紗羅の花はすっかり過ぎ、木をさすりながら登る。

頂上付近になると大きな岩に汗びっしょりになりながら、しがみついて登る。

登ってしまうといままでの形相はどこへやら、「やっぱりこれぐらい変化があるほうがおもしろかね」の声があちらこちらから。山頂ではトンボがたくさん飛んでいた。

下りもがれ場が多くストックにすがりながら、ほたるぶくろの花に慰められ、温泉とビールを想像しながら下る。

今日もとても楽しい山行でした。(中野 記)



7月23(土)・24(日)

## 九州脊梁の山・国見岳・金峰山

参加者：CL：中須賀、SL：田中(静)、救助：川原・鎗水、車：久保、  
会計：山下・田中(静) (6名)

今回は6名の小数でMY CARとなりKU氏の8人乗り車での山行となった。  
7時10分に西諫早駅前発で、島原外港8時25分一同発8時35分—熊本港9時40分—  
10時10分松橋に着いた。

ここから国道218号—445号で狭い国道で二本杉峠のじげ物販売の広場に11時過ぎについた。ここは雁俣山の登山口でもあり二度ほどきたことがある。

キャンプ帰りか、行くところか数人の若者が数台の車に集まっていた。左側のトイレ入口の前に何か見覚えのある木があり、下には白い花卉の花が落ちている。

ヒョットするとおおやまれんげ??と上の方を見ると一花咲いているではないか、おおやまれんげにしては時期がやや遅い、YA氏にいうと夏ツバキでは、やはりこれだった。しかし花卉の大きさ・白色の色合いからは見間違いそうな形態である。

### 「大金峰 1378m」

大金峰への登山口はここ二本杉峠から10分ほど11時30分頃であった。  
OHCでも以前ここへは登頂の機会があったようだが小生ははじめてである。かなり広い駐車場というか、林木の集荷場様の整地したそう広くない広場で、こういう開墾間近の畑地によく生える「たけにくさ」が多数生えていた。

(行程)「11時50分登山口発—展望地13:00—頂上13:05—昼食後発13:30—登山口14:10着  
(登り1時間15分、下り40分)」

ウォーミングアップを済ませ、解説書のとおりのも製の階段の急な登山口を11時50分から登る。ここから10数分も登るとやや平坦な登路となり雑木・松・杉の混交した林のなかを登った。

この山は「まむし」がいるとの情報が多く、登路脇にも大きな赤字でまむし注意の標識があった。登路は雨で流されてきた木ぎれ・草土の群れも時々あり、まむしも雨で流されたのではとも思われる。

登路は5～6分のやや急坂、次にまた数分の鞍部という状況が6?7回すぎて、展望が右手に広がる地点に達した。朝もわりと早かったせいか湿度も高く薄曇りの天候で見晴らしはよくない。右側には小金峰への標識があった。

ここからはスズタケも混じる登路となり、数分であつという間に頂上についた。半草地状で東側半分は杉の植林帯で傾斜はかなり急だった。昼食時となったが皆「まむし」のことは気にしていないようであった。周辺の展望はなく空も曇りで大した感動は湧かず。1時30分には下山開始、帰りは楽勝でずんずんと下り2時10分には登山口に無事着いた。本日は周辺観察の時間もあり、梅の木轟公園、吊り橋、滝=轟(とどろと発音)の見物を40分。この地方では滝の事を轟(とどろ)と言うそうで、ここの滝の勢いはものすごいものであった。台風6号時の大雨もあったのだろう。

### 「民宿佐倉荘」

4時過ぎに民宿佐倉荘についた。ここは前に一度きたことがあるが荘の横にはこの地出身の昔の下総の国の農民一揆の義民「佐倉宗吾」の墓というのがあった。

またこの荘の主は平家の末裔伝説?の家で、平清経(平清盛の孫\*謡曲にいう—いわゆる「清経：戦いのむなしさを嘆き入水したという反戦の公達との評がある」、実は入水

と見せかけ艱難辛苦の末にこの地近くの白鳥山に潜伏後この地を支配したとの伝説)の直系の末裔とのこと。

我がOHCの、平家一族の家臣の末裔というYA氏と同じアゲハチョウの家紋をもつとのことであり、玄関にはこの家紋が飾ってあった。事のついでだが、小生の先祖も平家方に味方した海賊一統で源平合戦後長崎県北部に落ち延びた松浦水軍の末裔と聞いたが、もちろん定かではないが、家紋は剣カタバミである。

夕食前には周囲の犬小屋ーやや痩せ気味の狩猟犬と見まごう勢いの良い犬5匹、家の表・裏のあつもり草、おおやまれんげー植樹??の散策。

2階の風呂は檜製であったが湯船は入浴時間も早かったこともあり、かすかすではなかったが少なかった。また、檜製の桶は底が抜けかかったものもあり、平家風の風情があった。夕食は、タケノコの蒸し焼き・イタドリの酢物・豆腐のみそ漬け等多くのおかずが出たが、いわゆるご飯はでなかった。もちろんわれわれの腹には糧は十分であった。



## 国見岳・24日

◎天候：晴れ (行程)

7:50 民宿発ー8:50 登山口着ー9:05 同発ー9:35 休息ー10:05 林道分岐ー11:30 五勇山分岐ー11:35 国見岳頂上ー昼食ー12:10 下山開始ー12:35 展望所ー13:10 林道分岐ー13:30 林道出会：14:05 登山口

7時に朝食、多くのおかずの朝食、注文弁当はこれまた二段仕立ての塩もみきゅうり付きでその大きさにびっくり。

準備に時間かかり予定より30分遅れて発ち8:50に五勇谷橋ゲートに1時間で行く。

ゲートから10分で登山口、何気ない田舎の山の登り口状であったが、解説書どおりの急坂、英彦山横の釈迦岳の直登路状であった。

久しぶりの先頭を歩いたが、30分で一休みの予定で、頂上までは2.5時間の計算で4回の休みで登った。9:45ひめしゃら大木地点でやや鞍部となり、シャラの木5本かと思っていたら、7ー10本の大木であった。

次の休息はとっていたら20分で林道分岐に出たのでここで休み、以降は鞍部やや緩い坂道、けやきの大木とつづいた。次の休息地予定の展望台はと探すが不明で通り過ぎ、登路右側のやや見晴らしの良い点で休息。

ついで11:30分に前方に石灰岩の大岩が連なり、しゃくなげの群落地となった。五勇山分岐があるはずだと思っているとすぐ標識が現れた。みな計画書の五勇岳分岐が頭にあったようで標識を見て安心した模様であった。



石楠花群落をかき分けて進むと5分もたたない11:35に国見岳頂上。

全方向展望の地、4ー5人の登山客あり、都城からとのこと、韓国岳周辺は大変でしょうということ今は落ち着いているとの返事だった。この方らに写真のシャッターをお願いして記念撮影をとった。

昨日のまむしではないが、祠の横の木の根元に大蛇の抜け殻もあった。おそらく周辺で見つけたものを誰かが木に巻きつけたようであった。

本日の行程からゆっくりはできず、昼食後すぐ下山開始、25分で展望所と言うだけ有

って見晴らし良好な鞍部の地点で休息。1時間で林道分岐、あつという間につく。

ここより伐採され・味気ない杉の植林帯のジグザグ路を30分で林道出合いに1時30分に着いた。

林道うへの砂防堤の冷水で頭を冷やし気合を入れ、林道歩き35分でゲート過ぎの登山口に無事帰着した。

ついで14:55分縦木・15:50かりまたの湯16:20同発・17:35熊本港に帰りつくも時間ぎりぎり乗船・17:40同発、18:45島原外港に、20:00西諫早駅前着、予定通り無事帰着した。

### 要約

- ◎ 大金峰は大きな山塊のため登路はゆるやか、展望不良で残念、まむしには会わず。
- ◎ 国見岳は権説書どおりの急坂の登路、似た坂の山の経験もありさほどの急坂には感じず。
- ◎ 自家用車利用であったが、少人数であり気遣いは少で何とかあった感覚であった。
- ◎ 10数人確保の安心ゆっくり登山を目指したい。

( 須賀 山人記 )

## 7月30日(土)～8月3日(水)

### 山々コンピでの八ヶ岳山行

(参加) 山崎、山下

自主

(行程) 31日 渋の湯 7:30—賽ノ河原地蔵 8:57—高見石小屋 9:30—中山展望台 11:28—中山(2496m)—黒百合ヒュッテ横を通過—昼食—東天狗岳(2646m)13:23—白砂新道入口 13:48—根石岳(2603m)—根石小屋着 14:11

### 7月30日～31日

八ヶ岳は一度行ってみたい山々であった。文化人がその山麓に多く住むという所から自然が豊かなんだろうと想像した。行って見てはたしてそのとうりであった。最初の晩に地震に遭った。寝てたけどかなり揺れて朝起きてみると長野県震度5だった。宿泊場所のおやじさんが黒百合ヒュッテまでは近いルートを行きなさいと言われたのに賽ノ河原地蔵を通るルート歩いた。初めは霧が出てる程度だった空も急に雨になり大岩ゴロゴロのルート在必死に歩いた。ゴロゴロの岩道を40分程歩くと向こうから下山者が現れてもう少し行くと傘さしてでも歩けますよって言われた時はその方が仏様のように見えた。

黒百合ヒュッテを通過する時、少し雨が止んでいてお弁当を食べるのにヒュッテでと思っていたが少し小雨のうちに歩こうという事になり少し進んだが結局お弁当たべるような岩場もなく雨の中で傘をさしての昼食となってしまった。もう少しルートを調べておくべきだったと反省する。東天狗岳に行きつくまで一団体追い抜いてしまった。やはり、我々早歩きな



んだろうか? 東天狗岳に着いた頃、急に霧が晴れ下のほうに今夜のお宿、根石山荘が見えてきた。そのときのうれしかった事。西天狗はあとまわしにしていっきに下りた。

山荘のまわりはなんとコマクサだらけ!。あとで散策すると白いコマクサも2株ほどあ

った。さて、ここ根石山荘はお風呂がある。早速冷えた身体を温めてその気持ちいい事。料理も手作りの品々がたくさん並びます。ここではカメラマンの二人連れや熊本からの6人組といっしょになった。明日のわれわれのルートを説明すると無茶だ、赤岳の頂上山荘で一泊しなさいとカメラマン二人連れにずいぶん言われてしまった。その時はまだ雨が降ったりしてたのでそうしようかなって考えたりした。しかし山の天気は分からないもの、翌日はいいお天気に恵まれるのであった。(山下 記)

## 8月1日

(行程) 根石小屋発 6:06—箕冠山—夏沢峠 6:37—硫黄岳(2760m)7:45—横岳(2829m)9:14 三叉峰 9:43—地蔵の頭 10:42—赤岳展望荘—赤岳(2899.2m)12:05 昼食—文三郎尾根分岐—文三郎尾根—行者小屋—中山乗越展望台—赤岳鉱泉着 14:10

(感想) 5月末頃に山下さんから「一緒に八ヶ岳に行かない？」とお誘いを受け即答で「はい」と… 山山コンビ。女性二人の山行。きっと楽しいでしょう。昨日7月31日は途中から雨の為足場が悪く大変だったので今日は降りませんようにと祈って6時過ぎに根石小屋を出発。小屋の前にはコマクサの群生。箕冠山。夏沢峠を越えて硫黄岳に到着。硫黄岳は小石を敷き詰めたような広い頂上で北東側に大きく爆裂火口がある。頂上からはこれから行く赤岳や横岳が見えた。横岳手前の斜面にはロープが張ってありコマクサの大群落。根石小屋よりも見事だった。ここを過ぎてから岩稜が始まる。険しい岩場や鎖場が多い。でも私はこういう所がスリルがあって好きだな。勿論三点支持で慎重に登る。赤岳展望で少し休憩を取り赤岳の頂上を目指す。きついけど頑張ろう赤岳。赤岳頂上で若いカップルに写真を撮って貰い今夜宿泊の赤岳鉱泉を目指す。阿弥陀岳は取り止め。怪我のないようにゆっくりゆっくり歩く。2時過ぎに赤岳鉱泉に到着。3時過ぎにはお風呂を今日1日の汗を流す。八ヶ岳では毎日お風呂にはいれて幸せ。食事はご馳走でステーキとサラダとフルーツとスープ。最高でした。八ヶ岳は山小屋も多くお風呂にも入れるし気に入りました。また違うコースから挑戦してみたいな—と思いました。本当に楽しい山行でした。ありがとうございました。(山崎 記)

## 7月31日(日)

### 小屋ヶ岳(991m) 笈吊峠(940m) 縦走

<参加者> 中級健脚組A班 (PL) 國分徳子、(SL) 下釜満子、高森陽子、  
林田ムツコ、森寿美子(\*)、山口イツコ(\*)  
中級健脚組B班 (PL) 福岡正廣、(SL) 田中静香、兵庫芳隆、岩永のり子、  
久保元治、松尾敏晴(\*)(\*)印は小屋ヶ岳からゆっくり組へ  
ゆっくり組 (PL) 佐原満子、(SL) 川原慶紀 (14名)

<行程> 諫早駅 6:00 西諫早 6:10=長崎自動車道=6:50 金立  
7:05=7:25 神辺バス停 7:35=8:27 道の駅山国 8:36=9:05 相の原バ  
ス停、登山開始 9:22—10:50 小屋ヶ岳分岐 11:42—12:22 昼食 12:48  
—13:10 茶臼山—13:28 笈吊峠 13:33—14:00 林道出合—14:32 相の原  
上登山口=15:07 道の駅山国(温泉入浴) 15:47=18:15 西諫早着



<感想> ゆっくり班 しばらく山に行っていなかったので申し込みそびれていたら、ゆっくりコースもあるとお誘いを受け、参加。登山口からカナカナと蝉の鳴き声を聞きながら歩き始めました。オオキツネノカミソリがところどころに咲いていて写真を撮っていると羽を痛めたのか足元に蝉がいる。鳴き声はよく聞くが実物を見たのは初めて、ついでに写真をとる。峠にリュックを置き小屋が岳山頂をめざす。途中で可憐な黄色い花が咲いていて少し元気をもらいやっと頂上に着く。下りはどんどん歩くが上りと違う道に入り込んだようだ。間違ったら元に戻るといわれ又山登りをすることになる。下りも気を抜かず目印を確認することを忘れずに歩かなければと反省させられました。私たちが迷って遅くなったので、健脚コースの人たちはもう出発していた。峠で食事を済ませ又同じ道を引き返す。みんなそろったところで道の駅の温泉へ行く。今日はボイラーが故障してシャワーが使えないからということで温泉は無料だった。ラッキー！大分の山はいつも変わった山があり楽しかった。誘ってくださってありがとう（森寿美子記）

### 小屋ヶ岳（991m）健脚班

当日は多少の曇り空ながらもまずまずのお天気でした。今回の山行は当初3名の申込みしかなく一時はマイカーでの山行を思案されていたとか。それが皆様のご協力にて14名の参加者を得てマイクロバス山行となりました。國分がいつもの神辺高速バス停にて合流。しかし、いつものほぼ予定での時間を見据えて合流点に向かっていたのですが皆さんの到着も早く



てだいぶバス停で待たせてしまいました。皆さんごめんなさい。バスは山国の道の駅にて休憩した後、津民耶馬へと左折。登山口である相ノ原バス停へ到着。登り始めてすぐの民家の脇に「オオキツネノカミソリ」が数本咲いていた。これは先行き期待できそう。林道歩きからいつの間にやら沢添いの岩ゴロゴロの登山道となり多少歩きづらい。すると、オレンジ色の「オオキツネノカミソリ」があちこちに群生して咲いている。こんなに咲いているとは、うれしくなってしまう。小屋ヶ岳は見る方向によっては姿、形の良い円錐形の山でそれだけに登り勾配がだんだんきつくなってくる。その山頂からは一方向しか展望が得られず残念。目の前の経読岳にわずか1m負けてます。小屋ヶ岳肩でゆっくり組と合流。我々は笈吊峠までなのでここで別れた。犬ヶ岳方面への縦走路歩きはアップダウンを繰り返しながら時折涼しい風に吹かれながらの歩きとなり途中茶臼山へほんの寄り道。その鈍頂からは英彦山から犬ヶ岳が眺められる。「ツクシシヤクナゲ」の木々の密集している地帯を腰をかがめながら歩くことしばし。咲いている頃は美しいだろうな、と思いつつ道も下り気味になりやっとなり笈吊峠へ到着。ここから、縦走路と別れて相ノ原集落へと下る。花が咲くかな、と思われる「トリカブト」の葉を眺めつつ狸の岩屋をのぞき見しながら、水のしたたり落ちる岩壁にへばり付く様にして咲いている「イワタバコ」の花を愛で、目の前で乱舞する黒紫色のアゲハ蝶を楽しみながらの下りだった。到着した下山口にはすでにゆっくり組とバスがまわっていて山国の道の駅にある温泉で汗を流し帰路についた。お疲れ様でした。（國分 記）

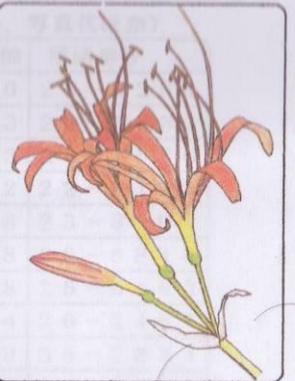


小屋ヶ岳で咲いていた  
オオキツネノカミソリ



オオキツネノカミソリ、田中カメラマン

オオキツネノカミソリ森(寿)カメラマン

<p>9. オオキツネノカミソリ (ヒガンバナ科)</p>  <p>キツネノカミソリ</p>	<p>オオキツネノカミソリ (大狐刺刀) 学名: <i>Lycoris kiushiana</i> MAKINO 植物学者牧野富太郎が昭和13年の夏、長崎県博物研究者の指導のため、湯江～金泉寺～大村・黒木コースを歩いたが、その時採集した標本をもとに、新種のオオキツネノカミソリとして発表した。 キツネノカミソリとの違いは、花びらが少し反り返り、雄しべが花びらより長く突き出る。</p>	
<p>雲仙や熊本県の五家荘あたりにも出現するが、多良岳では夏になると山中至るところに朱色の花を開いて林床を飾る。多良岳ほど豊富に見られる山はほかにない。</p>		

諫早自然保護協会資料から抜粋

8月4日 (木)

国民平和大行進 (大村市役所～西諫早駅)

<参加者> 福岡、佐原、兵庫、山口、林田、岩永の (6名)  
 <行程> 大村市役所 9:20 — 10:00 岩松駅 10:20 — 11:00 鈴田峠(昼食) 11:50 — 12:20 北バイパス高架下 12:30 — 13:05 永昌公園 13:20 — 13:55 高城公園 14:10 — 14:50 北バイパス中尾町 15:00 — 15:25 西諫早駅  
 <感想> 平和行進は一度も参加したことはない。前会長の宮島さんがこの時期になると生き甲斐の如く張り切って県内通し行進を行っていた。その宮島さんも退会され、しかも今日はオレンジHCの担当区間である。一度は行進しておかざばなるまいと決意し、オレンジHCの仲間4人と参加を申し込んでおいた。  
 大村市役所前には種々の団体がそれぞれ幟をもって集結する。オレンジHCの佐原さんは山ガールのスタイルでバッチリと決めている。他団体の若い女性達と全く遜色が無い。  
 行進に先立ち、かつては北海道から東京まで日本縦断をしたり、平和行進では東京から広島まで歩いたことがあり、今回広島から長崎までの通し行進をして、今日が31日

目になる五十嵐さんが紹介される。県内通し行進を連続して行っていた宮島先輩が、一度は長崎～広島間の通し行進をやってみたいと言っていたのが思い起こされる。

9:20 行進開始。「ノーモア広島、ノーモア長崎、ノーモア被爆者・・・」と訴える街宣車と共に、あゆみHC 7人、オレンジHC 5人も日本勤労者連盟の「平和と登山」の幟のもと、先頭近くを行進する。しかしこの幟、よく見ると福岡県連の名前が入っている。

長崎県連の幟は無いのだろうか。いささか寂しい気持ちになる。

今日も夏の青空、俗に言うピーカン天気である。予報では36度の猛暑日になるという。炎天下の行進では熱中症が心配だ。しかし風があるので思ったよりも楽に歩ける。

10:00 岩松駅到着。しばし休憩の間、街宣車に積み込まれている大きなポリ容器に入った氷茶がふるまわれる。以降も休憩の都度行われ、多量の水分を携帯して歩かなくても良いので非常に助かる。岩松駅から鈴田峠への途中で岩永(の)さんが合流する。ご主人に送ってもらったとのこと。何度か参加しており、宮島さんとも歩いたそう。

11:00 鈴田峠着。11:50 迄昼食休憩。弁当のない人のため店の方に40食程準備してあるとのこと。木陰で昼食、リュックを開けるがパンが入っていない。水筒やペットボトルに気を取られて、パンを入れ忘れてらしい。ボケも相当進行しているのか、我ながらイヤになる。おにぎり弁当より、好きないなり寿司にして午後の行進に備える。

下大渡野から左側につづく緑の稲田の中をシーサイドライナーが走っている。のどかな田舎の風景を連想させる。これも戦争のない平和の証であり、もう二度と戦争を起こしてはならない。また原爆を使用させてはならない。

北バイパス高架下、永昌公園、高城公園、北バイパス中尾町と休憩を取りながら西諫早駅へと向かう。やはり午後になると風もなくなり暑さも応えてくる。その上足底に肉刺ができたし歩きづらい。体質とはいえ肉刺には泣かされる。明日以降の生活がチョット心配。

高城公園では「長崎うたごえ協議会」の、ギターやアコーディオン奏者と十数名の女性合唱団が出迎えてくれる。また諫早市長、市議会議長のメッセージも披露される。

15:25 予定通り西諫早駅到着。肉刺に悩まされながらも何とか完歩する事ができた。

今更ながら宮島さんの10年連続県内通し行進の偉業と、その執念に脱帽し完敗を認める。

長崎うたごえ協議会の「原爆許すまじ」の歌声の中、散会して暑い夏の一日を終わった。

なお福岡さんを乗せていただきました、あゆみHCの皆様と、6日の平和登山リーダーとして、長崎まで下調べに行かれる忙しい身にもかかわらず、オレンジの4名を大村まで送って下さった坂口さんには、心からお礼申し上げます。ありがとうございました。

( 兵庫 記 )





ブロッケン現象を見た。頑張ったご褒美か



雨の中、ようやくたどりついた東天狗岳



7/31 奥渋の湯からの雨が東天狗岳で晴れた



根石岳から硫黄岳へのポイント



根石山荘を出発。お天気 快晴 (^◇^)



女 二人旅、硫黄岳で少しガスがかかって



タカネノツメクサ



コマクサ



キバナノヤマオダマキ



賽ノ河原地蔵、あの目玉を探して歩く



雲の上に富士山がみえた！！



奥渋の湯から賽ノ河原地蔵へのルート、このあたりはとても歩きやすい気持ち良い道

おれんじニュースNo258	
発行元	オレンジハイキングクラブ
発行責任者	福岡正廣
編集責任者 及び 原稿送付先	山下ちず子
発行年月日	2011.8.24
財政担当	
郵便振替講座	
ホームページ	<a href="http://orangehikingclub.web.fc2.com/">http://orangehikingclub.web.fc2.com/</a>



文三郎尾根から眺めた大岩。  
こんな岩を登って下りて